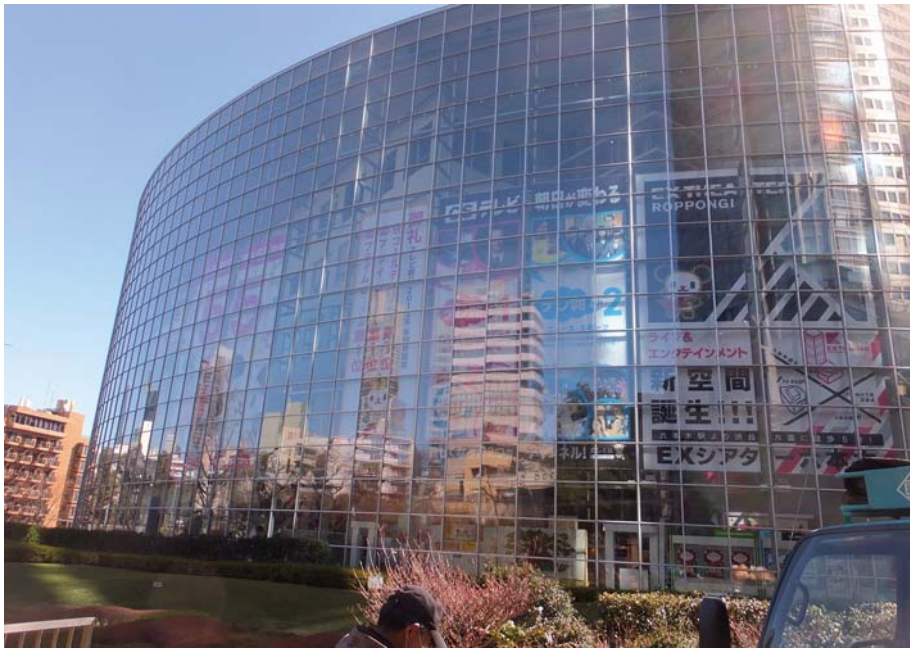


麻布にあった大学(駒澤大学・電気通信大学)



明治～大正時代：曹洞宗大学林専門学校(曹洞宗大学)



平成26年(2014年)：毛利庭園

曹洞宗大学林専門学校
→ 駒澤大学(現在)

明治15年(1882年)、麻布北日ヶ窪に開校し、明治38年(1905年)、曹洞宗大学に改称。駒沢に移転する大正2年(1913年)までの約30年間は港区六本木にあった。



昭和30～40年代(1955～1965年)頃：南麻布四丁目(都営住宅をはさみ安立電気本社を望む)



平成26年(2014年)：東京タワー西側の脚付近



平成26年(2014年)：ニュー山王ホテル付近

国立電気通信大学

大正7年(1918年)、国立電気通信大学、(通称：電通大)のルーツとなる電信協会管理無線電信講習所が麻布区飯倉町4丁目4番地(東京タワーの西側の脚付近)にあった小暮幼稚園の2階に創設された。当時、無線通信士の育成をめざしたその場所が、いま首都圏の電波を預かる要所になっている偶然は面白い。

電信協会管理無線電信講習所の前身「帝国無線電信講習会」は、安中電機製作所(現アンリツ(株))が大正5年(1916年)、港区の自社工場内に開設した。安中電機製作所は天現寺橋交差点そば、現在のニュー山王ホテル付近にあった。



昭和43年(1968年)頃：広尾病院から南麻布四丁目(天現寺橋交差点)を望む